

兄と私(兄妹)

—一番の理解者—

A-1、韓 旻永 (ハン ミンヨン)

1. 紹介文

私の大切なコミュニティは家族の中でも兄弟のコミュニティです。今は韓国にいて会えないけど、たまにメールとか携帯で連絡するとすごく心が和みます。

まず、兄のことを紹介すると、年は私より三つ上で今は大学を通いながら教会の伝道師をやっています。まだ学生ですが、親に頼らず何でも自分で解決する頼もしい兄です。性格はまじめで大人しいのであまり会話もなく、家にいても本を読んだり静かに勉強するのが普通で家族との交流もあまりないです。

ここまで聞くと、そういう兄がどうして一番のコミュニティなのか疑問に思う人もいるかも知れませんが、私の兄の良いところはあまり話さなくても他の人のことをちゃんと見ているというところなんです。いつも黙っていて、実は何にも聞いてないんじゃないかと思うと悩んでいることについて決定的な話をしてくれます。例えば、私が大学に進学する時も家庭事情で大学への進学を諦めようとしたら兄が手紙を書いて諦めないように説得してくれて、そして学費も冬休みの間に働いて備えてくれたりしました。秋田に留学するときも行きたいけど悩んでいる私に留学のことを進んでくれたり、悩んでいることについて安心させてくれたりして、私は快く留学を決めることができました。

そして、兄が一番のコミュニティなもう一つの理由を挙げると、兄とは夢を共有しているところです。兄と私は二人とも教師になるのが夢です。私は教師という目標についていつも迷っている反面、兄はまっすぐ自分が決めたことを一つ一つ達成していくタイプです。私にとって兄は唯一、一緒にこれからの計画を立てたり、どうすればいいのかを話せる相手です。

2. インタビュー相手について

このコミュニティをもっと深く知るためにはやはり兄をインタビューしないといけません。今は離れていて直接インタビューすることはできないけど、電話やメールなどで、兄

にこのコミュニティについて聞いたほうがこのコミュニティをもっとはっきり定義できると思います。このコミュニティには私の兄しかないということも決定的な理由でもありませんが、兄はどのような考えを持っているのかをすごく知りたいです。

3.インタビューの結果

インタビューをするときには何かインタビューという事実がばれると雰囲気を変になりそうで普通の会話のように自然に話をかけました。元々兄と話し合うときは真剣な雰囲気になる場合が多かったため、幸いながら兄は何も知らないまま自然にインタビューに応じてくれました。いろいろと無駄話もしながら会話したし、アプリで会話したので1時間半ぐらい時間がかかってしまい、終わる頃にはもうお休みって感じでした。

インタビューにはまず、今はとても仲がいいんですが、子供の頃にはどう思っていたかが気になって問うて見たら、私は覚えていないんですけど私が生まれて初めに母が私を抱いた時、「この子、誰？捨ててきて。」と言うほど私の存在自体がうっとうしいと思っただけです。また、兄が小学生で私がまだ幼稚園の時には、兄は一人でゲームばかりしてて、私には無関心だったのでその間に私がどこかへ行ってしまったのも気づかなくて、私を探しながら母にすごく怒られたこともあったそうです。何でそこまで私を嫌がったのかを聞くと、小さい頃、いろんなことでよく父に怒られたのが原因だそうです。私の父はとても厳しい人なのでありえると思いますけど、一つだけ例を挙げれば兄が四歳だったとき、時計を読めないという理由で父がものすごく怒って、怒られたくないからこっそり母に聞いたりしながら必死に当てたらしいです。そういうことが多く繰り返されながら、兄が消極的な性格になったので、父がこれはいけないと思って私は何があってもあまり怒ったり、叱ったりしなかったのです。それが兄はとても気に入らなかったみたいです。私は子供だったし、父の怒った顔はあまり見たことないので信じられないことでしたが、もし、私がそういう状況であったとしたらものすごく悪い思いをします。そういう状況の中であまり性格が曲がらなかった兄も不思議だと思います。確かに、兄妹の中で一番敏感な部分は兄妹であるのにもかかわらず差別されることのはずです。同じ親の子なのにひどいと私も兄に言いましたが兄は「たぶん、それがどんな気持ちなのかはあんたは知らない」と冗談半分に言っていました。

嫌いだった頃の話を結構しながらではどうして見直すことになったのかの話になって、兄は「昔はちょろちょろ歩き回るのすら目障りでうるさい子供だと思ったのに、高校生になって、家から遠い寮に入って目の前で消えたら、それはそれで親もあまり元なさそうな顔をして、家族の雰囲気が悪くなるから、あいつには一つはいいところがあったんだなあ。」と思っただけです。それに、昔から私たち兄妹は父に「兄は妹を大切に、

妹は兄に背かってはいけない。結局最後に頼れるのは兄妹しかない。」って毎日のように聞かされていたので、父の話の影響も大きかったと二人とも思っていました。特に私は父の影響が大きかったため、余程のことでないと兄にケンカを売ったりしなかつような気がします。

でも、兄にとって仲をより戻そうと思った決定的な理由は他にあったそうです。兄は高校生になって牧師になることを心に決めましたが、その時から父は私に「兄は牧師になるから稼げない。あなたがもうける仕事をして兄を手伝ってくれないといけない。」と言いつけさせました。兄はそのことを後に気づいたらしく、そういう形で妹に負担をかけてしまって悪いと思ったそうです。だから、それを知った後から自分をもっとしっかりして妹に負担をかけない兄になることを決めたようです。

そうしてからは、私と仲よくなるために努力していたみたいなんですけど、私が結構荒れてて思いどおりにならないから、学校の課題を装って心理テストをしたり、相談をしたりしたと言っていました。私は今になるまで本当に課題だったと思っていたのにちょっとビックリでした。

最後に兄に一番重要なこのコミュニティの意味について聞こうと思って「兄妹は必要だと思う？」と聞くと兄はあっけなく「必要だと思うよ。兄妹はお互いのことを一番よく知っているから必要。例えばね、前にあなたが誰かに自分は気が小さいとか、新しい人と話すときものすごく緊張するって言っても信じてもらえなかったっていったでしょう？それはたぶん他の人はあなたの外面しか見たことがないから理解できないのが当たり前なの。それにあなたがどんな風に気が小さいのかなんて他の人には一生かかっても分からないことかも知れない。でも、私は理解できるよ。たぶん、私のことも一番理解できるのはあなたしかないはず。だって、同じ環境で感じたことを共有しながら、一緒に育ったもの。少しは違うかも知れないけど、一番似てるに決まってるじゃん。だから、何を話しても一番通じ合うのは兄妹だと思う。それに、私を理解してくれる人が一人くらいはいたほうが心強いとは思わない？」と答えました。兄は恥ずかしいことをよくも言う性格だと昔からも思っていたんですが、このインタビューの時は本当に恥ずかしかったです。

4. 兄妹と私

思うと少し恥ずかしいですが、兄の言うとおりに私は兄と会話する時が一番心地いいです。それもまた、兄が私のことをよく分かってくれるからだとは実は思っているし、私のわがままを黙々と聞いてくれる人は兄しかいないと思ってるんで、このコミュニティはこれからも私にとって大切なコミュニティでい続けると思います。私はいつも兄のみかたにはなれ

なくて兄には悪かったと思いますが、それもこれから兄の言うとおりにお互いの理解者として私が努力する部分だと思います。そして、今までは兄にいろいろと頼ってきて、私のことは兄に打ち明けたりしましたが、兄の話を聞いてくれたのはあまりなかったので、これからはもっと兄のことも聞こうと思いました。

5.この授業への感想

正直、この授業を始めるときはコミュニティに関して何を定義して、どう名づければいいのかとても悩みました。でも、一番大切なコミュニティについて考えたり話したりしながら、私に今一番影響を与えている人たちのことや大切なコミュニティの思い出などを思い浮かばせ、とても懐かしい気持ちにとらわれることができました。普段はそばにるのが当たり前で、大切だと思う気持ちによく気づかなかったり、いつもわがままを言ったりしますが、たまにはこういう大切なことに対してちゃんと振り返ってみることも重要だと思った時間でした。